

令和6年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	50	学校名	恵那南高等学校
------	----	-----	---------

学校教育目標 (教育方針)	社会的・職業的自立に向けた基礎となる資質や能力を培い、知・徳・体の調和のとれた心豊かな地域社会人を育成します。	
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 自己の適性を理解し、自らの将来をデザインし、自己実現に向けて自発的に行動できる生徒 多様な人々と協調性をもって豊かな人間関係を築き、他者と協力して課題解決に取り組める生徒 地域との関わりを大切にし、地域の課題を発見し、地域の持続的な発展に貢献できる生徒
	生徒をどう育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の個性や能力を開花させ、将来の進路目標を実現するためのカリキュラムの編成とICT活用などによる分かりやすく個に応じた指導の実施 「探究的な学び」や教科学習、対話的な学びによる、コミュニケーション能力と自己表現力の育成 長く広い視野で自分の住む地域のことを考える心を育む教育活動の推進
	どんな生徒を待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動、部活動、生徒会活動などを通じて、自らの可能性に挑戦したい生徒 人との関わりやつながりを大切にし、仲間と協力しながら主体的に学びたい生徒 地域活動やボランティア活動などに主体的に参加し、地域社会で活躍したいという意欲のある生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 少人数であるが多様な生徒に対応するために、地域との連携、協同により、自己の存在意識を高め、地域社会における自分の責任を果たすことができる社会人を育成する場として存続し続けること。 地域の少子化が進み、中学校の統合が進められている現状において、近隣中学校からの入学生の確保と他地域からの志願者を増やすこと。 教員数の減少に伴い、これまで地域に根ざした学校として築いてきた様々な取組を受け継ぐ人材の確保と育成。 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	生徒の特性や興味関心と進路目標に応じた学力の伸長を目指すとともに、主体的に学ぶ姿勢や進んで課題解決に取り組む姿勢を高め、地域社会に貢献できる能力を育てます。
	生徒指導	地域や家庭及び小中学校、特別支援学校や地域との連携を密にすることにより、生徒一人一人の視野を広げ、ものの見方、考え方を深めることでより一層の生徒理解・生徒支援を目指します。
	進路指導	基本的な生活習慣・生活態度の定着を学校生活全般において徹底させ、地域に貢献できる人材の育成を目指します。
	学校経営	教職員の働き方改革を推進し、教職員・生徒ともに生き生きと活動できる学校を目指します。

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画で の位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標
学習指導	①多様な生徒に対して、少人数分割授業や習熟度別授業を展開し、ICT機器を効果的に活用するなど、学習方法を工夫し、学力の定着を図ります。	9	施策Ⅱ-9 授業アンケートによる授業評価 外部テストの学力状況
	②教育研究実践機関「浪漫学園」での協働的な学びや地域連携事業等の体験的な学びを活用し、主体的な学習姿勢や課題解決能力を高めます。	1 4 7	施策Ⅰ-1 施策Ⅰ-4 施策Ⅰ-7 地域活性化への貢献度 生徒の自己評価
	③演劇等ワークショップや種々の地域連携事業を通し、生徒の主体性、コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図る魅力を教育を推進します。	1 7	施策Ⅰ-1 施策Ⅰ-7 アンケートによる生徒の評価
生徒指導	①挨拶、言葉遣い、基本的なマナー、規範意識の向上について、学校生活の全ての場面で全職員が指導に当たり、生徒理解に基づく支援を行います。	1 2	施策Ⅰ-1 施策Ⅰ-2 生徒、保護者、地域の評価。また、取組の結果等を検証する。
	②地域行事や地域施設を利用した学習に積極的に参加し、地域との交流を深めて自己肯定感の高揚に努めます。	4 7	施策Ⅰ-4 施策Ⅰ-7 生徒・職員がどの程度地域と関わり、新たな発見をすることができたか。
	③ふるさと魅力体験事業を活用するとともに、外部の人材による各種講座等を増やすことにより、地域に根差した道徳心を育てます。	1 2 7	施策Ⅰ-1 施策Ⅰ-2 施策Ⅰ-7 生徒が何をすることができたか、意識の変化はあったか。
	④出身中学校や特別支援学校と高校間、医療機関等との連携を密にし、情報交流を深めることで、適切な生徒理解と支援をします。	7	施策Ⅰ-7 どのような方法で生徒の成長及び進路意識の向上に結びつけたか。
進路指導	①高校3年間を見通した指導計画を作成し、生徒一人一人が各自の進路目標を達成できるように、全職員で指導と支援の充実を図ります。	23	施策Ⅳ-23 生徒が決めた目標を達成できたか。また、保護者や外部の視点からも妥当であったか。
	②「COREハイスクール事業」を活用し各種教育活動を通じて地域に貢献できる人材を育てます。	7	施策Ⅰ-7 地域とのふれあいの中で何を学び、地域の声をどう反映することができたか。
	③地域の企業等と連携した企業実習の充実を努め、望ましい職業観、勤労観を育てます。	7 13	施策Ⅰ-7 施策Ⅱ-13 企業実習を通して職業観・勤労観が高められたか。
学校経営	①広報活動を活発に行うことにより、学校の活動や魅力を家庭や地域に広く伝え、学校と家庭・地域社会との相互理解を図ります。	7 20	施策Ⅰ-7 施策Ⅳ-20 本校に対する理解はどの程度深まったか。
	②常に教職員の業務の見直しを図り、適正化・効率化に努め、教職員が生き生きと働き、生徒ひとりひとりとしっかり向き合える時間の確保に努めます。	27	施策Ⅳ-27 時間外在校等時間の上限を超えない取組、工夫ができていますか。
	③教職員が信頼し合えるチームづくりを行い、「働きやすい環境づくり」を構築します。	28	施策Ⅳ-28 適切に年次休暇等を活用するなど、健康管理に配慮しているか。

年度末評価(自己評価)			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
①授業研究週間において、教員が観点別評価の設定方法について検証、及び、生徒が学習理解を深めるためのICT機器の効果的な活用について実践した。 ②学校設定科目「観光資源研究」における土雛づくり、及びライフサポート系列生徒による絵本の読み聞かせを明智小の児童と実施した。 ③「文学座」による演劇ワークショップを3回実施、恵那南地域サポーターによるコミュニケーション講座を1・2年次生に実施した。	B	○学校評価アンケート「ICT機器を有効に活用した授業が行われている」について77%の生徒が肯定的評価。 ○B社基礎力診断テストにおいて、1・2年次ともに国語平均が2ランク・英語平均において1ランクアップした。 ○コミュニケーション講座において、1・2年次生の65%が「大変良かった」と評価し、コミュニケーションにおいて聴く態度が重要であることを理解できた。 ▲「浪漫学園」での取り組みは活動が全校生徒にまで広まらず、特定の生徒に限定されてしまっている。	B
①挨拶、言葉遣い、基本的なマナー、規範意識の向上について、学校生活の全ての場面で全職員が一致して指導に当たり生徒理解に基づく支援を行うようにした。 ②生徒会を中心として、生徒が主体的に地域行事や地域施設を利用した学習に積極的に参加し、地域との交流を深め自己肯定感の高揚を得ることに努めた。 ③ふるさと魅力体験事業を活用するとともに外部の人材による各種講座を増やし、地域に根差した道徳心を育てるようにした。 ④出身中学校や福祉機関、医療機関等との連携を密にし情報交流を深め、適切な生徒理解と支援を行った。	B	○学校評価アンケート「高校生としてあいさつやマナーなど社会規範を身に付けるための指導を行っている」について90%の保護者・生徒が肯定的評価。 ○学校評価アンケート「教育相談体制の充実など、生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりに努めている」について91%の保護者が肯定的評価。 ○生徒会選挙に立候補者が多数立候補するなど生徒の主体的な取り組みの充実により自己肯定感をより多くの生徒が感じられた。 ▲問題行動や校内でのルールを守らせていく観点から見ると、教職員の一致団結したより一層の指導が課題と言える。	B
①基礎力診断テストを2回実施して、学力の進捗状況を確認した。 ②企業や上級学校の情報収集を行い、進路説明会やガイダンスなど、効果の高い進路行事を厳選して担任や進路説明会を通じて生徒にフィードバックした。また、応募前企業見学を複数社可能にするなど、生徒が情報を集めやすい環境を整えた。 ③インターンシップやデュアル実習などの取り組みが、内定につながった生徒もいた。	B	○就職希望者は担任団のきめ細やかな指導の成果もあり、多くの生徒が希望企業に内定した。 ○進学希望者については先生方の教科指導や小論文指導により、多くの生徒が希望の学校に合格した。粘り強く一般選抜に挑む生徒もいる。 ▲企業・上級学校選びのノウハウが職員間で共有されていない。指導できる教員が偏っている。	B
①積極的なホームページの更新、生徒会によるSNSでの発信等、広報活動に努めた。 ②グループウェアの活用などにより、無駄な業務が増えないよう心掛け、チームで取り組む体制づくりを行って、業務が集中している職員の負担を分散した。 ③職員間で相談しやすい雰囲気づくりに努め、協力して業務に取り組むようにした。	B	○総合学科の利点などに対する地域中学校の理解も深まり、入学志願者の増加傾向等、一定の効果が見られた。 ▲定員を充足するまでには至っておらず、より一層の広報活動が必要である。 ○時間外在校等時間が昨年度月平均2.2時間から今年度2.0時間に減少した。 ○職員間の雰囲気についてアンケートにより、高い評価が得られた。 ○ほとんどの職員が年休取得日数10日以上を達成できた。	B

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年1月10日

学校関係者評価

実施日：令和7年1月23日

<ul style="list-style-type: none"> 令和8年度に地域5中学校が統合され、恵那南中学校が開校するのに備え、「浪漫学園」による中学校との連携の在り方、連携内容等について検討する。 生徒指導に関する情報共有に努め、職員間での指導の統一・協力体制の強化を図る。 企業・上級学校選びの専門的なノウハウを共有し、より一層の進路指導の充実を図る。 SNSやホームページによる情報発信をさらに充実させ、地域社会に対し、本校の魅力を浸透させるよう努める。

<ul style="list-style-type: none"> 少人数教育や総合学科の特色を生かしたきめ細やかな指導がなされており、生徒の成長が実感できる。 「産社・総合学習発表会」の発表内容の充実が象徴されるように、生徒のコミュニケーション能力・自己表現力が年々向上している。 充実した教育相談体制などにより、転・退学者数の減少などの効果が見られる。 国公立大学合格など、きめ細やかな指導により、生徒の進路目標実現ができています。 本校の教育内容について高い評価が得られたが、中学校との連携や情報発信の充実について高い期待があるので、より一層の充実を図っていきたい。
--